

内田洋行新川本社ビル「ユビキタス協創広場 CANVAS」における戦略的FMの実践

プロジェクトの全体像

背景

経営環境の変化

- ・成熟化・グローバル化による競争激化
- ・情報化の加速によるビジネススタイルの変化
- ・顧客要求の高度化・多様化
- ・技術革新・進化のスピードの加速
- ・進歩性・新規性・独創性の希求

FMの背景となる経営課題

「ユビキタス・プレイス」という独自のビジョンの具現化と浸透

- ・経営戦略の共有と展開スピードの加速
- ・事業シーズの仮説化と検証の加速
- ・市場ニーズの傾聴力の高度化
- ・ステイクホルダーとの交流の拡大
- ・概念や仮説の具体化・可視化の促進

変化に対応できる柔軟性と俊敏性を 持つ経営体質の実現

- ・変化に対応できる経営インフラの確立
- ・加速する情報化への対応力の具備
- ・より強靱な企業体質の獲得
- ・よりダイナミックな行動様式の醸成
- ・多様なワークスタイルへの対応

*「ユビキタス・プレイス」:ICT・空間デザイン・情報デザインを駆使して、いつでも・どこでも・だれでも・なんでも、容易に情報を活用しコミュニケーションできる場

新川本社ビルにおける戦略的FMの実践

FMの目標

当社が提唱する事業ビジョン「ユビキタス・プレイス」を実現するために、様々なステイクホルダーとの協創を促進し、市場の潜在ニーズの把握や技術・事業シーズの実証ができる、経営戦略推進の「装置」となるファシリティを構築し、運用を通じて進化させていく。

実施施策(新川ビルにおけるリノベーション)

- 2005年 耐震補強工事、アスベスト除去工事、1F、B1F(コミュニケーション施設)リノベーション
- 2005年 潮見オフィスにCustomer Briefing Center」設置、運用開始
- 2006年 札幌支店に「u-cala」設置、」運用開始
- 2008年 2F・3F(コミュニケーション施設)リノベーション
- 2010年 先行して実施したプロジェクトの運用評価を踏まえ、4～9Fのリノベーションを実施

FMの特徴(キーワード)

- ・スパイラルアップ型(仮説検証型)のリノベーション
- ・ICT(情報通信技術)とデザインの融合
- ・経営戦略を実現する装置としてのファシリティ
- ・成長し続けるファシリティ

成果

ビジョンや戦略の理解・共有の促進

- ・経営戦略を具現化する「場」が実現し、社員やパートナーの戦略の理解・共有が着実に進んでいる
- ・当社のビジョンの可視化により、顧客やステイクホルダーの当社に対する理解・共感が深まった

柔軟性・俊敏性(アジリティ)の向上

- ・フレキシブルな空間ストラクチャーと情報インフラにより、利用要件に俊敏に対応できる「場」が実現した
- ・様々な利用要件に対応できるインフラができたため、「まず試してみる」という俊敏な行動様式が芽生えてきた

社員の行動様式の変化と 顧客・パートナーとの交流機会の増加

- ・ICTを活用したコミュニケーションやゲストへのホスピタリティ等、社員の行動様式が変化してきた
- ・ゲストのクチコミやネットメディアでの評判を通じ、「ユビキタス・プレイスを実現する企業」という新たな企業イメージが浸透してきた

内田洋行新川本社ビル「ユビキタス協創広場 CANVAS」における戦略的FMの実践

多様なコミュニケーションシーンをサポートする「場」



セミナースペース

100～120名収容できる多目的コミュニケーションスペース。9面のスクリーンを駆使した、多様なスタイルのプレゼンテーションを行っている。

USTREAMやtwitter等のリアルタイムWEBコミュニケーションツールを活用した新しいスタイルのカンファレンスも実践している。



セミナースペースでの パネルディスカッションの様子

産学連携のカンファレンスでのシーン。バックのスクリーンにはUSTREAMで配信されている会場の様子と、インターネットを介して参加しているセミナー参加者からのtwitterでのコメントがリアルタイムで表示され、会場内外の垣根を越えたコミュニケーションを実現している。



多目的コミュニケーション スペース(B1F)

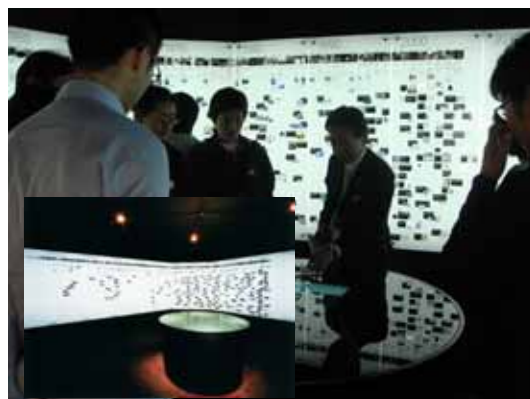
2004年の第1期リノベーション時に設置したコミュニケーションスペース。セミナー・カンファレンス・学会・展示会・パーティ等に幅広く活用された。その成果と経験が次のリノベーションにつながっている。



ミーティングスペース

すべてのミーティングスペースには、無線接続ができるプロジェクターが設置しており、誰でも持参したPCからコンテンツを投影してプレゼンテーションができるようになっている。

また、多くのミーティングスペースに、簡単に使えるビデオカンファレンスシステムが装備されており、日常的に遠隔地とビデオ会議を行うスタイルが定着してきた。



コーポレートミュージアム

タンジブル・ユーザーインターフェース(キーボードやマウスを使わないコンピュータ操作技術のひとつ)を用いた社史のプレゼンテーションスペース。

インターフェースがユニークで面白いため、思わず社史の説明に聞き入ってしまうゲストが多い。ゲストに自社の文化や理念を紹介する効果は大きい。



「D-Molo Bar」

パーティ、ワークショップ、展示会等に活用されるコミュニケーションスペース。当社のホスピタリティスタイルとて定着してきた手作りの料理でお迎えするパーティを楽しみにイベントに参加されるゲストも多い。

内田洋行新川本社ビル「ユビキタス協創広場 CANVAS」における戦略的FMの実践

協創(ナレッジ・コラボレーション)を促進する「場」

実践・実証を通じた知識創造を支援する「場」



BIルーム/ナレッジスペース

テキスト情報・数値情報に加え画像・映像等の様々な情報資源を活用した「チームBI」(チームでのビジネスインテリジェンスの活用)を行うためのスペース。情報へのアクセスや操作環境を整備したことにより活用度が向上した。



ワークプレイス

天井材を貼らずにスラブまで吹き抜けた空間。スマートインフィルと呼ばれるアルミ構造材のプラットフォームに照明等の設備システムやICTデバイスを付設し空間を構成するBOX IN BOX型の空間デザインを採用している。

ワークサーフェスや間仕切りパネルは簡単に移設が可能であり、チーム編成やプロジェクトメンバーの変更に速やかに対応できる。



BIルーム/ナレッジスペース

BIルームに付設されたライブラリーでは最新の書籍を閲覧できるとともに、エンタープライズサーチシステムを活用した探索型の情報検索の体験ができる。ここで様々な情報検索方法を体験し、自分の業務での活用へつなげていくことが狙い。



テストベッド

次世代技術エンジニアのワークプレイスに隣接している実証実験スペース。システムやプロダクトのプロトタイプを利用環境に近い状態で設置・稼働させ評価するためのスペース。



ビジュアルイゼーションスタジオ

高精細リアルタイム3Dレンダリングシステムを活用して、デザインシミュレーションやカスタマー参加型のデザイン意思決定を行うためのスペース。

携帯端末を利用した直感型インターフェースや、AR(拡張現実)インターフェース等を装備することにより、プロフェッショナル仕様の高精細CGを誰でも手軽に操作できるようになった。



LEDラボ

LED照明事業を担当している部門に隣接されている実験スペース。LED照明システムの輝度・照度・色温度・演色性等を様々な制御環境と連動して検証するための施設。